

リユースびん導入に向けた懸案事項と解決の方向性について

これまで関係者からお伺いした話、既往調査からの課題と解決の方向性について整理した。整理結果について、課題の過不足、本当に解決すべき課題なのかといった点でご意見をいただきたい。

これまでに明らかとなった懸案事項の共有	解決の方向性
<p>(1) 生産 (酒造会社)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者からのクレームの可能性 ・ びん調達に関するコスト ・ 製造ラインの変更に関するコスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一升瓶では大きな問題となっていない。 ・ 業務用ではクレームには繋がらない可能性が高い。 ・ メーカー毎に事情が異なるためいくつかのパターンについて検証が必要。 ・ 既導入事例においては大幅なコスト増にはなっていない。
<p>(2) 流通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P箱での流通の可能性 ・ 使用済みびんの回収方策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既導入事例においてはフーズコンテナの中容量P箱 (全国共通) を流用。 ・ 業務用であれば逆ルート (小売・卸経由) で回収は容易。 ・ 業務用以外については活きびんを回収するため集団回収への呼びかけが必要。 ・ 小売店舗での回収の促進。
<p>(3) 消費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リユースびんに関する理解・認知度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者に向けた普及啓発が必要。 ・ 地域での盛り上がり、地域団体の皆様の活動・協力への支援が必要。
<p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 丸正びんとRびんの価格差 ・ Rびんの購入ルート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回収率が高くなり洗びん使用の割合が高まればコスト面でのメリット発生。 ・ 一般論としては需要増によりびん供給面で競争が起これば単価が下がる可能性有。 ・ 需要増によりRびんの供給ルートが多様化する可能性有。